

「事業名：日本版ハンフォードモデル構築による福島復興創生」 2020年度補助事業の実績・成果

東日本国際大学 連携市町村：いわき市、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村
連携市町村との協定締結日：2020年1月25日 現地拠点：双葉郡広野町大字下北佐久迫字大谷内65

事業のポイント

本事業の主な趣意は、東日本国際大学福島復興創世研究所がコーディネーターとして、福島県のいわき市・双葉郡8町村、地元産業界、市民活動団体が産学官民一体となって米国ハンフォード地域（核放射能汚染地区から米国有数の繁栄エリアに発展）の主な機関・団体と緊密な協力関係を構築。福島浜通り地域がハンフォードをモデルとして調査・研究、検証を進めることで、廃炉の進展、産業の振興、地元の実利をもたらす地域構造等を一層促進させ、福島復興のための新たな地域創出に寄与することである。



今年度の活動実績

- ・「福島浜通りトライデック」の設立に向けたタスクフォース・ワーキンググループ会議の開催
- ・昌平覺キャラバンの実施
- ・オンライン国際セミナーの開催
- ・「福島浜通りトライデック」専用HPの立ち上げ
- ・報告書「大西・トリプレット レポート」の作成・製本
- ・復興庁主催の「トライデック機能立ち上げに向けたオンライン勉強会」(計4回開催)
大西所長、中村所長代行らが講演



今年度の成果

- ・ハンフォードとのコネクション構築と福島浜通りにおける広域的な連携体制の構築維持
- ・報告書「大西・トリプレット レポート」を基に、オンライン国際セミナーを開催したことにより、ハンフォードと福島浜通りにおける双方の理解促進、また一般の方々の本事業への理解促進が進んだ。
- ・「福島浜通りトライデック」構築に向けたタスクフォースを設立。ワーキンググループも立ち上げる。
- ・復興庁による国際教育研究拠点における「福島浜通りトライデック」機能構築の勉強会に講師として参加。

